

韓国との経済交流

～北陸（日本）・韓国経済交流会議について～

北陸環日本海経済交流促進協議会
業務課長 平 陽一郎

北陸環日本海経済交流促進協議会 （北陸AJEC）について

- ・北陸経済連合会より派生した組織
- ・設立目的は以下の通り

『本会は、産・官・学連携のもとに、※1対岸諸国及びアセアン諸国（以下、「対象国・地域」という。）と北陸地域との経済交流を促進するため、対象国・地域及び北陸地域に関する各種情報の収集・提供、対象国・地域に関する調査・研究並びに普及・啓発活動を行うとともに、人材育成のための研修、調査団の派遣等を行うことにより、対象国・地域との経済交流を促進し、当地域をはじめとするわが国の経済の発展に資することを目的とする。』

※1対岸諸国：ロシア極東・東シベリア地域、中国東北地域、朝鮮半島及びその周辺地域を指す。

北陸と韓国の関係性①

写真口環日本海諸国図（逆さ地図）



写真解説口富山県が建設省国土地理院長の承認を得て作成した地図を転載したもの（平六総使第七六号）

北陸と韓国の関係性②

平成28年（2016年）データ

(1)輸出通関実績

(単位:百万円)

輸出先	北陸3県合計		
	国名	金額	シェア
1位	韓国	100,787	23.1%
2位	中国	88,919	20.4%
3位	アメリカ	47,856	11.0%
4位	フィリピン	24,208	5.6%
5位	タイ	19,999	4.6%
6位	ロシア	19,126	4.4%
7位	インド	18,598	4.3%
8位	台湾	14,712	3.4%
9位	ベトナム	14,006	3.2%
10位	マレーシア	11,334	2.6%
上位10ヶ国・地域シェア合計		359,546	82.5%
輸出総額		435,649	100.0%

(2)輸入通関実績

(単位:百万円)

輸入先	北陸3県合計		
	国名	金額	シェア
1位	中国	86,998	23.4%
2位	韓国	37,170	10.0%
3位	ロシア	36,411	9.8%
4位	オーストラリア	35,335	9.5%
5位	インドネシア	27,341	7.4%
6位	アメリカ	20,880	5.6%
7位	ドイツ	15,175	4.1%
8位	オランダ	14,649	3.9%
9位	タイ	11,905	3.2%
10位	ベトナム	10,548	2.8%
上位10ヶ国・地域シェア合計		296,412	79.7%
輸入総額		371,677	100.0%

北陸AJEC機関誌「Warm TOPIC」より

資料:平成28年 財務省貿易統計

・北陸からの輸出通関実績では1位、輸入通関実績では2位

北陸（日本）・韓国経済交流会議とは①

- ・1999年 3月 「日韓経済アジェンダ21」
 - ・1999年12月 「第2回 日韓官民合同投資促進協議会」
 - ・2000年7月 「第1回 北陸(日本)・韓国経済交流会議」(中部経済産業局が中心となり開催)
- ↓
- ・2010年8月 「第11回 北陸(日本)・韓国経済交流会議」より
北陸AJECが事務局として実施している



北陸（日本）・韓国経済交流会議とは②

《目的》

日韓関係の一層の緊密化、北陸地域の産業の活性化等を図ること

《会議の内容》

全体会議:メインテーマに対する提言、取り組みの発表

分科会:各種テーマ(自治体、医療、観光...etc.)について取り組みの発表

産業・観光視察:開催地における視察



ビジネスマッチングの様子(第17回/富山)



東レ先端素材(株)産業視察(第18回/大邱)

第18回北陸（日本）・韓国経済交流会議

《開催概要》

開催日時:2017年8月27日～30日

開催場所:韓国 慶尚北道 安東(アンドン)市 於安東グランドホテル

参加者数:北陸(日本)側 52名(企業24社)

韓国側 120名(企業26社) 計172名

会議テーマ:「共通課題解決に向けた日韓地方間の協力」

○全体会議+3つの分科会

- ・自治体分科会・・・地域の活性化施策について
- ・イノベーション分科会・・・イノベーション事例、支援施策について
- ・ビジネス分科会・・・日韓ビジネスマッチング

北陸（日本）・韓国経済交流会議の成果

- ・(有)ほっとりハビリスシステムズ・・・韓国現地法人設立
- ・金沢工業大学・・・韓国の大学との連携(ロボティクス分野)
- ・韓国人材の北陸企業への紹介(㈱ホスピタブル、KOTRA名古屋、韓日経済協会との連携)
- ・韓国交通研究院との意見交換会、光陽湾圏自由経済区域庁との説明会
- ・KOTRA名古屋との連携推進(韓国との共創会議も定期化)
- ・韓国人留学生との交流



第19回会議について

- ・来年度は福井県で開催予定(2018年8月末頃)

FUKUI, HAPPINESS



日韓企業の理想的な取組事例：小松精練とコーロンの連携

北 國 新 聞 2017. 11. 9

第3種郵便物認可

韓国大手と連携拡大

小松精練 次世代素材で協業

小松精練(能美市)は、韓国の繊維大手、コーロングループとの連携を拡大する。包括提携しているコーロン・ファッション・マリアル共同開発した人工スエード素材、ファッションや自動車などの産業分野に投入するほか、炭素繊維複合材など次世代素材でも協業を推進し、両社間の人材交流も開始する。両社は2020年までに、売上高を10億円以上積み上げる計画だ。

8日、東京・銀座の大型・マリアルは衣料や自動車部品などの素材を手掛ける。小松精練は2015年10月、同社と包括提携を結び、コーロングループの繊維を組み合わせ、共同開発の第一弾は、コーロン・ファッション・マリアルの人工皮革をベースとした生地だ。日本国内では「コマスエード」の名前で展開される。銀座ショップ

小松精練と韓国・コーロン社が共同開発した素材が並ぶ展示会。東京・銀座の銀座ショップ

クスノ展示会では、小松精練が加工を施し、発色や質感、表面の素材感などこだわった多様化された素材約150点が多彩な用途向けに披露された。

- ・ 出資などはない (TOP同士の信頼がベース)
- ・ お互いの強い部分で連携 (小松精練：欧州、コーロン：米国)
- ・ 布地の相互使用

・・・等々

油田社長は、小松精練の製造拠点のノウハウをコーロンに提供し、今後日韓両国で製造する意向を示したほか、「化粧品などの分野でも来年度から人材交流を始めた」と述べた。小松精練の副社長、カホーミー氏をはじめ、両社がともに参入している建築分野でも、連携を深め

今後の経済交流について

《両国間の諸問題》

- ・日韓政府間の関係
- ・北朝鮮問題

《両国間の優良点》

- 国としての類似性
- 貿易相手国
- 企業の海外進出先



◎今後も両国地域間経済交流の発展に取り組んでいく

